平成28年度事務事業一覧表　　課名：美化センター　　第1号様式

事業番号	事業名	内　容	対象外項目番号
	清掃総務運営事務事業		
1	虫窪スポーツ広場・西久保ゲートボール場管理事業	両施設の維持管理	－
2	清掃総務事務事業	美化センター運営事務	②
3	美化センター維持管理事業	管理棟の維持管理及び付属施設の維持管理	－
4	一般廃棄物処理手数料賦課徴収事業	し尿処理手数料、ごみ処理手数料等の賦課徴収事務	－
	ごみ収集運搬事業		
5	ごみ収集運搬事業	可燃ごみ、資源ごみ等収集運搬、剪定枝収集運搬業務	－
	ごみ処理事業		
6	ごみ処理作業車維持管理事業	トラック、重機等の維持管理	－
7	一般廃棄物選別保管処理事業	臨時職員の雇用、作業研修委託事務、粗大ごみ等の廃棄物運搬・処理業務	－
8	（仮称）リサイクルセンター整備事業	（仮称）リサイクルセンター建設に係る施工監理	③
9	し尿収集運搬事業	汲み取りトイレ及び仮設トイレ等のし尿の収集運搬業務	－
10	し尿処理事業	し尿処理施設の維持管理	－
11	し尿処理施設維持整備事業	し尿処理施設の機能維持のための機器の補修整備及び定期点検	③

平成　28　年度事務事業評価シート

第２号様式

		シート作成日	平成28年10月11日
予算事業名	清掃総務運営事務事業	担当課名	美化センター
		係名	施設係
細分事業名	虫窪スポーツ広場・西久保ゲートボール場管理事業	事業番号	1
		事業開始年度	—

1.総合計画上の位置づけ

柱	—	総合計画実施計画	
部門	—	認定番号	—
大施策	—	事業名	—
中施策	—		

2.事業の概要

根拠法令・条例等	—			
個別計画等	—			
行政経営プラン 実施計画事業	実施番号	—	実施項目名	—
目的 （何のために）	虫窪スポーツ広場及び西久保ゲートボール場の適正な維持管理を行う。			
対象 （誰を・何を）	虫窪地区住民・西久保地区住民			
内容	ごみ焼却処理施設の建設、し尿旧投棄場跡地の地元還元施設として整備した両施設の管理運営を行う。			
執行体制	■ 町職員実施	□ 一部委託あり	□ 全部委託	□ その他

		単位	平成26年度 （決算）	平成27年度 （決算見込）	平成28年度 （予算）
事業費	直接事業費　(a)	千円	1,996	1,633	1,536
	国庫支出金	千円			
	県支出金	千円			
	起債	千円			
	その他	千円			
	一般財源	千円	1,996	1,633	1,536
	職員人数（概算職員数）	人	0.08	0.11	0.11
	人 件 費 計　(b)	千円	490	657	635
	総事業費 (a)+(b)	千円	2,486	2,290	2,171

事業費内訳 Ｈ　28　年度	○虫窪スポーツ広場・西久保ゲートボール場水道料　19千円 ○虫窪スポーツ広場・西久保ゲートボール場草刈委託　840千円 ○用地借上料　677千円

3.指標値の推移

各種指標の実績と見込み、目標 （ 指 標 名 ）			単位	26年度 （実績値）	27年度 （実績値）	28年度 （見込み又は計画値）
対象指標 （対象者数等）	①	利用団体数（虫窪）	回	9	9	9
	②	利用者数（西久保）	回	—	—	—
活動指標 （活動量）	①	利用日数（虫窪）	日	73	73	100
	②	利用日数（西久保）	日	—	—	—
成果指標 （達成度等）	①	利用率（虫窪）	%	20	20	27
	②	利用率（西久保）	%	—	—	—

4.事務事業の評価

妥当性	・実施主体は妥当か		□ 妥当	■ おおむね妥当	□ 変更の必要あり	□ その他
		理由	両施設は、地元還元施設のため運営上必要である。			
	・実施手段は妥当か		□ 妥当	■ おおむね妥当	□ 改善の必要あり	□ その他
		理由	スポーツ広場、公園として広く利活用できる管理運営が必要である。			
成果	・意図した成果が得られているか		□ 得られている	■ おおむね得られている	□ 得られていない	□ その他
		理由	地元還元施設としての利用が図られている。			
効率性	・コストに対して効率的か		□ 効率的	□ おおむね効率的	■ 非効率	□ その他
		理由	利用率が低い。			
	・コストの削減等を図ったか		□ 図った	□ 図られていない	■ 図る余地は無い	□ その他
		理由	地元還元施設を管理するうえで、現場職員が対応するなど、必要最小限の経費で運営している。			

担当課による評価			評価理由
	■	A 妥当性、成果、効率性はおおむね良いが、改善の余地がある	利用率は低いが、地元還元施設として存続が必要な施設である。
	□	B 事業の一部見直しが必要	
	□	C 事業の抜本的な見直しが必要	
	□	D 事業継続の必要性が低い（休止・廃止）	

5.改革・改善の方向性

① 課題点や改善点

地元の町民に利用される施設への改善が必要である。
スポーツ広場、公園等との一元管理することにより効率化を図ることを検討する必要がある。

② 平成28年度に着手する事項

利用状況の確認。

③ 平成29年度に着手する事項

一元管理に向け、地元への要望確認・関係課との調整。

6.平成29年度事業への取組み状況（改善内容等）

記入日	平成29年3月25日

利用者が安全かつ快適に利用できるよう、引き続き、地元の要望に対応するとともに、両施設の適正な管理に努めていく。

平成　28　年度事務事業評価シート

第２号様式

		シート作成日	平成28年10月11日
予算事業名	美化センター維持管理事業	担当課名	美化センター
		係名	施設係
細分事業名	—	事業番号	3
		事業開始年度	昭和52年度

1.総合計画上の位置づけ

柱	—	総合計画実施計画	
部門	—	認定番号	—
大施策	—	事業名	—
中施策	—		

2.事業の概要

根拠法令・条例等	—			
個別計画等	—			
行政経営プラン 実施計画事業	実施番号	—	実施項目名	—
目的 （何のために）	管理棟及び公舎の適正な維持管理を行う。			
対象 （誰を・何を）	管理棟及び公舎			
内容	美化センターの管理棟及び公舎の維持管理を行う。			
執行体制	□ 町職員実施	■ 一部委託あり	□ 全部委託	□ その他

		単位	平成26年度 （決算）	平成27年度 （決算見込）	平成28年度 （予算）
事業費	直接事業費　(a)	千円	511	892	1,362
	国庫支出金	千円			
	県支出金	千円			
	起債	千円			
	その他	千円	116	756	572
	一般財源	千円	395	136	790
	職員人数（概算職員数）	人	0.13	0.50	0.50
	人 件 費 計　(b)	千円	797	2,985	2,886
	総事業費 (a)+(b)	千円	1,308	3,877	4,248

事業費内訳 Ｈ　28　年度	○需用費　1,001千円 ○役務費　361千円

3.指標値の推移

各種指標の実績と見込み、目標 （ 指 標 名 ）			単位	26年度 （実績値）	27年度 （実績値）	28年度 （見込み又は計画値）
対象指標 （対象者数等）	①	開庁日数	日	310	310	310
	②					
活動指標 （活動量）	①	事業費	千円	511	513	1,362
	②					
成果指標 （達成度等）	①	床面積あたりの事業費	円	1,143	1,148	3,047
	②					

4.事務事業の評価

妥当性	・実施主体は妥当か		■ 妥当　□ おおむね妥当　□ 変更の必要あり　□ その他
		理由	施設管理者が維持管理することが妥当である。
	・実施手段は妥当か		■ 妥当　□ おおむね妥当　□ 改善の必要あり　□ その他
		理由	美化センター運営には必要不可欠である。
成果	・意図した成果が得られているか		□ 得られている　■ おおむね得られている　□ 得られていない　□ その他
		理由	事務に支障なく施設管理ができている。
効率性	・コストに対して効率的か		□ 効率的　■ おおむね効率的　□ 非効率　□ その他
		理由	必要最小限の経費で維持管理を行っている。
	・コストの削減等を図ったか		□ 図った　□ 図られていない　■ 図る余地は無い　□ その他
		理由	施設の老朽化が進み修繕を必要とする場所が増えている。

担当課による評価	■	A 妥当性、成果、効率性はおおむね良いが、改善の余地がある	評価理由
	□	B 事業の一部見直しが必要	美化センターを運営していくうえで、必要な施設である。
	□	C 事業の抜本的な見直しが必要	
	□	D 事業継続の必要性が低い（休止・廃止）	

5.改革・改善の方向性

① 課題点や改善点

施設の老朽化が進んでいるため、施設の建替え、改修等の検討が必要である。

② 平成28年度に着手する事項

ごみ処理広域化に伴い、新設等を予定するし尿処理施設の建設と合わせた整備の検討。

③ 平成29年度に着手する事項

ごみ処理広域化に伴い、引き続き、新設等を予定するし尿処理施設の整備の検討。

6.平成29年度事業への取組み状況（改善内容等）

記入日	平成29年3月25日

美化センター管理棟及び公舎については、広域施設として整備する「し尿処理施設」の整備状況を踏まえ、適正な維持管理に努めていく。また、老朽化している女性用トイレや２階会議室空調機の改修を行う。

平成　28　年度事務事業評価シート

第２号様式

		シート作成日	平成28年10月11日
予算事業名	一般廃棄物処理手数料賦課徴収事業	担当課名	美化センター
		係名	施設係
細分事業名	—	事業番号	4
		事業開始年度	—

1.総合計画上の位置づけ

柱	—	総合計画実施計画	
部門	—	認定番号	—
大施策	—	事業名	—
中施策	—		

2.事業の概要

根拠法令・条例等	—			
個別計画等	—			
行政経営プラン 実施計画事業	実施番号	—	実施項目名	—
目的 （何のために）	町民生活の公衆衛生の向上			
対象 （誰を・何を）	し尿、ごみ及び動物等の処理を依頼する町民等			
内容	し尿、ごみ及び動物の死体等の処理手数料の賦課徴収を行う。			
執行体制	■ 町職員実施	□ 一部委託あり	□ 全部委託	□ その他

		単位	平成26年度 （決算）	平成27年度 （決算見込）	平成28年度 （予算）
事業費	直接事業費　(a)	千円	994	695	773
	国庫支出金	千円			
	県支出金	千円			
	起債	千円			
	その他	千円			
	一般財源	千円	994	695	773
	職員人数（概算職員数）	人	0.32	0.36	0.36
	人 件 費 計　(b)	千円	1,961	2,149	2,078
	総事業費 (a)+(b)	千円	2,955	2,844	2,851

事業費内訳 Ｈ　28　年度	○賦課徴収事務消耗品代　８千円 ○賦課徴収事務印刷製本費　510千円 ○賦課徴収事務手数料　255千円

3.指標値の推移

各種指標の実績と見込み、目標 （ 指 標 名 ）			単位	26年度 （実績値）	27年度 （実績値）	28年度 （見込み又は計画値）
対象指標 （対象者数等）	①	汲み取り賦課件数	件	270	257	244
	②					
活動指標 （活動量）	①	汲み取り賦課件数	件	270	257	244
	②					
成果指標 （達成度等）	①	徴収率	%	99	99	99
	②					

4.事務事業の評価

妥当性	・実施主体は妥当か		■ 妥当	□ おおむね妥当	□ 変更の必要あり	□ その他
		理由	賦課・徴収は町職員の実施が妥当である。			
	・実施手段は妥当か		■ 妥当	□ おおむね妥当	□ 改善の必要あり	□ その他
		理由	賦課・徴収は町職員の実施が妥当である。			
成果	・意図した成果が得られているか		□ 得られている	■ おおむね得られている	□ 得られていない	□ その他
		理由	し尿処理手数料の徴収率維持が図られている。			
効率性	・コストに対して効率的か		□ 効率的	□ おおむね効率的	■ 非効率	□ その他
		理由	し尿処理手数料は徴収件数が少ないが、労力を必要とする事務である。			
	・コストの削減等を図ったか		□ 図った	□ 図られていない	■ 図る余地は無い	□ その他
		理由	必要経費のみを計上している。			

担当課による評価	■	A 妥当性、成果、効率性はおおむね良いが、改善の余地がある	評価理由
	□	B 事業の一部見直しが必要	徴収率の維持が図られている。
	□	C 事業の抜本的な見直しが必要	
	□	D 事業継続の必要性が低い（休止・廃止）	

5.改革・改善の方向性

① 課題点や改善点

町外への転出者等に対する、対応の検討が必要である。

② 平成28年度に着手する事項

美化センター各種手数料滞納整理実施計画に基づき、夜間徴収等を実施する。

③ 平成29年度に着手する事項

美化センター各種手数料滞納整理実施計画に基づき、夜間徴収等を実施する。

6.平成29年度事業への取組み状況（改善内容等）

記入日	平成29年3月25日

し尿、ごみ及び動物の死体等の処理手数料の賦課徴収を適正に行うとともに、現年度を中心とした計画的な滞納整理に努めていく。

平成　28　年度事務事業評価シート

第２号様式

		シート作成日	平成28年10月11日
予算事業名	ごみ収集運搬事業	担当課名	美化センター
		係名	施設係
細分事業名	ごみ収集運搬事業	事業番号	5
		事業開始年度	昭和53年度（不燃ごみ） 昭和60年度（可燃ごみ）

１.総合計画上の位置づけ

柱	―	総合計画実施計画	
部門	―	認定番号	―
大施策	―	事業名	―
中施策	―		

２.事業の概要

根拠法令・条例等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律			
個別計画等	―			
行政経営プラン 実施計画事業	実施番号	―	実施項目名	―
目的 （何のために）	排出された廃棄物を適正に収集することにより、衛生的な生活環境の保全を図る。			
対象 （誰を・何を）	全町民			
内容	一般家庭から排出される可燃ごみ、不燃ごみ、資源ごみ等を委託により適性かつ効率的に収集する。			
執行体制	□ 町職員実施	□ 一部委託あり	■ 全部委託	□ その他

		単位	平成26年度 （決算）	平成27年度 （決算見込）	平成28年度 （予算）
事業費	直接事業費　(a)	千円	223,751	223,528	223,600
	国庫支出金	千円			
	県支出金	千円			
	起債	千円			
	その他	千円			
	一般財源	千円	223,751	223,528	223,600
	職員人数（概算職員数）	人	0.76	0.80	0.80
	人 件 費 計　(b)	千円	4,657	4,775	4,618
	総事業費 (a)+(b)	千円	228,408	228,303	228,218

事業費内訳 Ｈ　28　年度	○可燃ごみ収集運搬委託料　145,000千円 ○資源ごみ等収集運搬委託料　78,600千円

３.指標値の推移

各種指標の実績と見込み、目標 （ 指 標 名 ）			単位	26年度 （実績値）	27年度 （実績値）	28年度 （見込み又は計画値）
対象指標 （対象者数等）	①	人口	人	32,523	32,377	31,497
	②					
活動指標 （活動量）	①	委託収集量	t	8,540	8,550	8,550
	②					
成果指標 （達成度等）	①	１t当たりの収集経費	円	26,200	26,200	26,200
	②					

4.事務事業の評価

妥当性	・実施主体は妥当か		■ 妥当　□ おおむね妥当　□ 変更の必要あり　□ その他
		理由	委託業務により、効率的に収集が実施されている。
	・実施手段は妥当か		■ 妥当　□ おおむね妥当　□ 改善の必要あり　□ その他
		理由	委託業務により、効率的に収集が実施されている。
成果	・意図した成果が得られているか		■ 得られている　□ おおむね得られている　□ 得られていない　□ その他
		理由	委託業務により、効率的に収集が実施されている。
効率性	・コストに対して効率的か		■ 効率的　□ おおむね効率的　□ 非効率　□ その他
		理由	委託業務により、効率的に収集が実施されている。
	・コストの削減等を図ったか		□ 図った　□ 図られていない　■ 図る余地は無い　□ その他
		理由	広域処理に係る必要最小限の経費のみを計上している。

担当課による評価	■	A 妥当性、成果、効率性はおおむね良いが、改善の余地がある	評価理由
	□	B 事業の一部見直しが必要	委託業務により、効率的に収集が実施されている。
	□	C 事業の抜本的な見直しが必要	
	□	D 事業継続の必要性が低い（休止・廃止）	

5.改革・改善の方向性

① 課題点や改善点

（仮称）大磯町リサイクルセンター（平成30年度稼動予定）稼動後は、可燃ごみ、ペットボトル、不燃ごみが、大磯町美化センターへ搬入となるため、効率的な収集体制の見直し、また、高齢化に伴う個別収集などの収集方法の検討が必要となる。

② 平成28年度に着手する事項

（仮称）大磯町リサイクルセンター（平成30年度稼動予定）稼動後は、可燃ごみ、ペットボトル、不燃ごみが大磯町美化センターへ搬入となるため、収集体制の見直しを行う。

③ 平成29年度に着手する事項

（仮称）大磯町リサイクルセンター（平成30年度稼動予定）稼動後は、可燃ごみ、ペットボトル、不燃ごみが大磯町美化センターへ搬入となるため、引き続き、収集体制の見直しを行う。

6.平成29年度事業への取組み状況（改善内容等）

記入日	平成29年3月25日

引き続き、効率的で安全な収集運搬に努めていく。また、（仮称）大磯町リサイクルセンターの運用が平成30年度から開始予定のため、収集運搬先の変更、収集体制の見直しを行う。

平成　28　年度事務事業評価シート

第２号様式

		シート作成日	平成28年10月11日
予算事業名	ごみ処理事業	担当課名	美化センター
		係名	施設係
細分事業名	ごみ処理作業車維持管理事業	事業番号	6
		事業開始年度	—

1.総合計画上の位置づけ

柱	—	総合計画実施計画	
部門	—	認定番号	—
大施策	—	事業名	—
中施策	—		

2.事業の概要

根拠法令・条例等	道路運送車両法			
個別計画等	—			
行政経営プラン 実施計画事業	実施番号	—	実施項目名	—
目的 （何のために）	ごみ処理作業車の適正な維持管理を行う。			
対象 （誰を・何を）	ごみ処理作業車の維持管理			
内容	美化センターが所有するごみ処理作業車の法定点検・日常点検等の維持管理を行う。			
執行体制	□ 町職員実施	■ 一部委託あり	□ 全部委託	□ その他

		単位	平成26年度 （決算）	平成27年度 （決算見込）	平成28年度 （予算）
事業費	直接事業費　(a)	千円	9,481	7,750	8,332
	国庫支出金	千円			
	県支出金	千円			
	起債	千円			
	その他	千円			
	一般財源	千円	9,481	7,750	8,332
	職員人数（概算職員数）	人	0.15	0.16	0.16
	人 件 費 計　(b)	千円	919	955	924
	総事業費 (a)+(b)	千円	10,400	8,705	9,256

事業費内訳 H　28　年度	○燃料費　1,071千円　○重機借上料　4,796千円 ○車検等修繕料　1,300千円　○公用車リース料　839千円 ○自動車損害保険料　297千円 ○自動車重量税　29千円

3.指標値の推移

各種指標の実績と見込み、目標 （ 指 標 名 ）			単位	26年度 （実績値）	27年度 （実績値）	28年度 （見込み又は計画値）
対象指標 （対象者数等）	①	車両台数	台	12	9	9
	②					
活動指標 （活動量）	①	点検日数	日	310	310	310
	②					
成果指標 （達成度等）	①	整備車両台数	台	12	9	9
	②					

4.事務事業の評価

妥当性	・実施主体は妥当か		■ 妥当　□ おおむね妥当　□ 変更の必要あり　□ その他
		理由	車両維持管理上で必要な法定点検、修繕であり妥当である。
	・実施手段は妥当か		■ 妥当　□ おおむね妥当　□ 改善の必要あり　□ その他
		理由	車両維持管理上で必要な法定点検、修繕であり妥当である。
成果	・意図した成果が得られているか		□ 得られている　■ おおむね得られている　□ 得られていない　□ その他
		理由	車両の安全運転を鑑み、点検等の完全実施と必要最小限の整備を図っている。
効率性	・コストに対して効率的か		□ 効率的　■ おおむね効率的　□ 非効率　□ その他
		理由	取得から年数が経過している車両が多いため各箇所に劣化が多く整備・修理費が高い。
	・コストの削減等を図ったか		□ 図った　□ 図られていない　■ 図る余地は無い　□ その他
		理由	車両維持管理上で必要な法定点検、修繕を行う。

担当課による評価	■	A 妥当性、成果、効率性はおおむね良いが、改善の余地がある	評価理由
	□	B 事業の一部見直しが必要	車両を安全に走行するうえでの点検整備を行っているが、車両の老朽化による修繕が発生している。
	□	C 事業の抜本的な見直しが必要	
	□	D 事業継続の必要性が低い（休止・廃止）	

5.改革・改善の方向性

① 課題点や改善点

（仮称）大磯町リサイクルセンター（平成30年度稼動予定）稼動に伴い、必要車両等の検討が必要となる。

② 平成28年度に着手する事項

（仮称）大磯町リサイクルセンター（平成30年度稼動予定）稼動に向け、必要車両等の検討を行う。

③ 平成29年度に着手する事項

（仮称）大磯町リサイクルセンター（平成30年度稼動予定）稼動に向け、必要車両等の見直しを行う。

6.平成29年度事業への取組み状況（改善内容等）

記入日	平成29年3月25日

ごみ処理広域化に伴い、一般廃棄物処理施設などまでの運搬距離が長くなっているため、計画的な点検整備により安全性を高めるとともに維持管理費の削減に努めていく。また、平成30年度から（仮称）大磯町リサイクルセンターの運用が開始されることに伴い、重機等の必要性の再検討を行う。

平成　28　年度事務事業評価シート

第２号様式

		シート作成日	平成28年10月11日
予算事業名	ごみ処理事業	担当課名	美化センター
		係名	施設係
細分事業名	一般廃棄物選別保管処理事業	事業番号	7
		事業開始年度	平成２年度

1.総合計画上の位置づけ

柱	—	総合計画実施計画	
部門	—	認定番号	—
大施策	—	事業名	—
中施策	—		

2.事業の概要

根拠法令・条例等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律			
個別計画等	—			
行政経営プラン 実施計画事業	実施番号	—	実施項目名	—
目的 （何のために）	種別ごとに搬入された廃棄物を、作業場所で適正に選別等を行うとともに、作業場所の維持管理を行う。 また、選別された廃棄物を委託等により処理施設へ搬出し、資源化・最終処分を適正に行う。			
対象 （誰を・何を）	町内一般家庭・事務所から収集又は搬入されるごみ			
内容	種別ごと搬入された廃棄物を、委託業務により作業場所で適正に選別等を行うとともに、作業場所の維持管理を行う。また、選別された廃棄物を委託等により処理施設へ搬出し、資源化・最終処分を適正に行う。			
執行体制	□ 町職員実施	■ 一部委託あり	□ 全部委託	□ その他

		単位	平成26年度 （決算）	平成27年度 （決算見込）	平成28年度 （予算）
事業費	直接事業費　(a)	千円	73,769	53,736	56,145
	国庫支出金	千円			
	県支出金	千円			
	起債	千円			
	その他	千円	7,458	23,576	22,542
	一般財源	千円	66,311	30,160	33,603
	職員人数（概算職員数）	人	0.69	0.95	0.95
	人 件 費 計　(b)	千円	4,228	5,671	5,483
	総事業費 (a)+(b)	千円	77,997	59,407	61,628

事業費内訳 Ｈ　28　年度	○共済費　124千円　○賃金　5,180千円　○施設管理消耗品　600千円　○印刷製本費　65千円 ○修繕費　100千円　○施設管理・廃棄物処理委託料　48,507千円　○自動車通行料　28千円 ○用地借上料　1,401千円　○公害健康被害補償賦課金　140千円

3.指標値の推移

各種指標の実績と見込み、目標 （ 指 標 名 ）			単位	26年度 （実績値）	27年度 （実績値）	28年度 （見込み又は計画値）
対象指標 （対象者数等）	①	家庭系ごみ	t	9,395	8,930	9,223
	②	事業系ごみ	t	1,297	1,828	1,720
活動指標 （活動量）	①	ごみ処理量	t	10,692	10,758	10,943
	②					
成果指標 （達成度等）	①	１ｔあたりの処理経費	円	6,900	5,600	5,200
	②					

4.事務事業の評価

妥当性	・実施主体は妥当か		■ 妥当　□ おおむね妥当　□ 変更の必要あり　□ その他
		理由	残渣等の運搬、処分については全て民間委託業務で行っている。
	・実施手段は妥当か		■ 妥当　□ おおむね妥当　□ 改善の必要あり　□ その他
		理由	残渣等の運搬、処分については全て民間委託業務で行っている。
成果	・意図した成果が得られているか		■ 得られている　□ おおむね得られている　□ 得られていない　□ その他
		理由	種別ごと搬入された廃棄物を、委託業務により作業場所で適正に選別等を行うとともに、作業場所の維持管理を行っている。
効率性	・コストに対して効率的か		□ 効率的　■ おおむね効率的　□ 非効率　□ その他
		理由	資源化や最終処分を行うために、適正な処分費が掛かる。
	・コストの削減等を図ったか		□ 図った　□ 図られていない　■ 図る余地は無い　□ その他
		理由	資源化や最終処分を行うために、適正な処分費が掛かる。

担当課による評価	■	A 妥当性、成果、効率性はおおむね良いが、改善の余地がある	評価理由
	□	B 事業の一部見直しが必要	民間委託を行い適正な廃棄物の最終処分を行っている。
	□	C 事業の抜本的な見直しが必要	
	□	D 事業継続の必要性が低い（休止・廃止）	

5.改革・改善の方向性

① 課題点や改善点

（仮称）大磯町リサイクルセンター（平成30年度稼動予定）稼動に伴い、運営主体が民間業者に変更となるため、受入体制等の調整を図る必要がある。また、仮作業場所の利活用について検討の必要がある。

② 平成28年度に着手する事項

搬出する廃棄物の数量等が流動的であるため、搬入先との連絡調整を密に行い、適性な廃棄物処理を行う。

③ 平成29年度に着手する事項

搬入された一般廃棄物を、処理先である１市２町ごみ処理広域化処理施設等別に分解・選別等を行う。また、（仮称）大磯町リサイクルセンター（平成30年度稼動予定）の運用開始にあたって、運営主体である民間業者との受入体制等の調整を図る。

6.平成29年度事業への取組み状況（改善内容等）

記入日	平成29年3月25日

搬入された一般廃棄物を、処理先である１市２町ごみ処理広域化処理施設等別に分解・選別等を行うとともに、搬入先である処理施設と連絡調整を密にし、適性かつ計画的な執行を行う。また、平成30年度運用開始予定である（仮称）大磯町リサイクルセンターの運営が円滑に行われるよう、引き継ぎ業務（運営準備会の実施、現場説明会の実施など）を行う。

平成　28　年度事務事業評価シート

第２号様式

		シート作成日	平成28年10月11日
予算事業名	し尿収集運搬事業	担当課名	美化センター
		係名	施設係
細分事業名	—	事業番号	9
		事業開始年度	—

1.総合計画上の位置づけ

柱	—	総合計画実施計画	
部門	—	認定番号	—
大施策	—	事業名	—
中施策	—		

2.事業の概要

根拠法令・条例等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律			
個別計画等	—			
行政経営プラン 実施計画事業	実施番号	—	実施項目名	—
目的 （何のために）	し尿を適正に収集することにより、公衆衛生の向上を図る。			
対象 （誰を・何を）	汲み取り式便所の町民、事業者等			
内容	一般家庭及び事業所等から排出される、し尿を委託により適性かつ効率的に収集する。			
執行体制	□ 町職員実施	□ 一部委託あり	■ 全部委託	□ その他

		単位	平成26年度 （決算）	平成27年度 （決算見込）	平成28年度 （予算）
事業費	直接事業費　(a)	千円	42,230	41,926	42,000
	国庫支出金	千円			
	県支出金	千円			
	起債	千円			
	その他	千円	3,048	2,753	2,866
	一般財源	千円	39,182	39,173	39,134
	職員人数（概算職員数）	人	0.15	0.50	0.50
	人 件 費 計　(b)	千円	919	2,985	2,886
	総事業費 (a)+(b)	千円	43,149	44,911	44,886

事業費内訳 Ｈ　28　年度	○し尿収集運搬委託料　42,000千円

3.指標値の推移

各種指標の実績と見込み、目標 （ 指 標 名 ）			単位	26年度 （実績値）	27年度 （実績値）	28年度 （見込み又は計画値）
対象指標 （対象者数等）	①	汲み取り世帯数・事業所数	世帯	261	257	253
	②	し尿収集量	kℓ	447	426	406
活動指標 （活動量）	①	延べ汲み取り世帯数・事業所数	世帯	3,430	3,190	2,970
	②	し尿収集量	kℓ	447	426	406
成果指標 （達成度等）	①	し尿収集回数	回	1	1	1
	②	１kℓあたりの収集経費	円	94,500	98,900	103,400

4.事務事業の評価

妥当性	・実施主体は妥当か		■ 妥当	□ おおむね妥当	□ 変更の必要あり	□ その他
		理由	全面委託で実施している。			
	・実施手段は妥当か		■ 妥当	□ おおむね妥当	□ 改善の必要あり	□ その他
		理由	全面委託で実施している。			
成果	・意図した成果が得られているか		□ 得られている	■ おおむね得られている	□ 得られていない	□ その他
		理由	原則１ヶ月に１回収集しており、対象者の要望に対応している。			
効率性	・コストに対して効率的か		□ 効率的	□ おおむね効率的	■ 非効率	□ その他
		理由	収集対象世帯の減少により、収集の効率性が低くなっている。			
	・コストの削減等を図ったか		□ 図った	□ 図られていない	■ 図る余地は無い	□ その他
		理由	収集に係る必要最小限の経費のみを計上している。			

担当課による評価	■	A 妥当性、成果、効率性はおおむね良いが、改善の余地がある	評価理由
	□	B 事業の一部見直しが必要	収集対象世帯の減少により、収集の効率性が低くなっている。
	□	C 事業の抜本的な見直しが必要	
	□	D 事業継続の必要性が低い（休止・廃止）	

5.改革・改善の方向性

① 課題点や改善点

公共下水道整備の推進に伴い、対象世帯が減少傾向にあり年々事業が縮小されている。し尿収集運搬事業の適正化、安定化を図る必要がある。

② 平成28年度に着手する事項

なし。

③ 平成29年度に着手する事項

なし。

6.平成29年度事業への取組み状況（改善内容等）

記入日	平成29年3月25日

一般家庭及び事業所から排出されるし尿を委託することにより、適性かつ効率的な収集運搬に努めていく。

平成　28　年度事務事業評価シート　　第２号様式

		シート作成日	平成28年10月11日
予算事業名	し尿処理事業	担当課名	美化センター
		係名	施設係
細分事業名	―	事業番号	10
		事業開始年度	昭和52年度

1.総合計画上の位置づけ

柱	―	総合計画実施計画	
部門	―	認定番号	―
大施策	―	事業名	―
中施策	―		

2.事業の概要

根拠法令・条例等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律			
個別計画等	―			
行政経営プラン 実施計画事業	実施番号	―	実施項目名	―
目的 （何のために）	し尿及び浄化槽汚泥を適正に処理することにより、公衆衛生の向上を図る。			
対象 （誰を・何を）	し尿及び浄化槽世帯、事業所			
内容	町内より収集されたし尿及び浄化槽汚泥をし尿処理施設において適正に中間処理を行うとともに、施設の運転及び維持管理を実施する。また、中間処理により発生した汚泥等については、平塚市ごみ焼却施設で処理する。			
執行体制	□ 町職員実施	□ 一部委託あり	■ 全部委託	□ その他

		単位	平成26年度 （決算）	平成27年度 （決算見込）	平成28年度 （予算）
事業費	直接事業費　(a)	千円	63,103	63,480	65,500
	国庫支出金	千円			
	県支出金	千円			
	起債	千円			
	その他	千円	29,869	36,929	34,754
	一般財源	千円	33,234	26,551	30,746
	職員人数（概算職員数）	人	0.30	0.20	0.20
	人 件 費 計　(b)	千円	1,838	1,194	1,154
	総事業費 (a)+(b)	千円	64,941	64,674	66,654

事業費内訳 Ｈ　28　年度	○消耗品　11,300千円　○光熱水費　22,800千円 ○修繕費　500千円　○手数料　2,031千円　○委託料　28,574千円 ○使用料及び賃借料　215千円　○原材料費　80千円

3.指標値の推移

各種指標の実績と見込み、目標 （ 指 標 名 ）			単位	26年度 （実績値）	27年度 （実績値）	28年度 （見込み又は計画値）
対象指標 （対象者数等）	①	し尿及び浄化槽人口	人	18,746	17,846	16,946
	②					
活動指標 （活動量）	①	し尿及び浄化槽汚泥処理量	kℓ	9,215	8,574	8,449
	②					
成果指標 （達成度等）	①	１kℓあたりの処理経費	円	6,850	8,240	7,750
	②					

4.事務事業の評価

妥当性	・実施主体は妥当か		□ 妥当	■ おおむね妥当	□ 変更の必要あり	□ その他
		理由	委託業務により、適切な処理がされている。			
	・実施手段は妥当か		□ 妥当	■ おおむね妥当	□ 改善の必要あり	□ その他
		理由	委託業務により、適切な処理がされている。			
成果	・意図した成果が得られているか		■ 得られている	□ おおむね得られている	□ 得られていない	□ その他
		理由	し尿及び浄化槽汚泥の全量をし尿処理施設で適正に処理している。			
効率性	・コストに対して効率的か		□ 効率的	■ おおむね効率的	□ 非効率	□ その他
		理由	施設の処理能力に合わせた施設運営を行っている。			
	・コストの削減等を図ったか		□ 図った	□ 図られていない	■ 図る余地は無い	□ その他
		理由	施設の運営に係る必要最小限の経費のみを計上している。			

担当課による評価	■	A 妥当性、成果、効率性はおおむね良いが、改善の余地がある	評価理由
	□	B 事業の一部見直しが必要	適正に処理を行っているが、施設の老朽化が進んでいる。
	□	C 事業の抜本的な見直しが必要	
	□	D 事業継続の必要性が低い（休止・廃止）	

5.改革・改善の方向性

① 課題点や改善点

施設の老朽化が進んでいる中、ごみ処理広域化で平塚市のし尿、浄化槽汚泥の受入を行っており、設備を適正に維持管理するためには整備計画を立て、計画的に整備していく必要がある。

② 平成28年度に着手する事項

し尿及び浄化槽汚泥を適正に処理するため、し尿処理施設の運営管理を民間業者に全面委託し、適正な施設運営に努めていく。
また、精密機能検査の結果と、受入を行っている大磯町と平塚市のし尿・浄化槽汚泥のくみ取り量の推移を踏まえ、既存施設の適正管理や新設等について、施設の処理規模や公共下水道の進捗を踏まえて検討・調整を行う。

③ 平成29年度に着手する事項

既存施設の適正管理や新設等について、平塚市と施設の処理規模や公共下水道の進捗を踏まえ、引き続き、検討・調整を行う。

6.平成29年度事業への取組み状況（改善内容等）

記入日	平成29年3月25日

し尿及び浄化槽汚泥を適正に処理するため、し尿処理施設の運営業者と連携を密にし、適正な施設運営に努めていく。
引き続き、１市２町のし尿・浄化槽汚泥のくみ取り量の推移を踏まえ、ごみ処理広域化によるし尿施設の処理規模等を検討する。